

宮ノ陣ビオトープ新聞

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力

株式会社エコプラン研究所

夏号

宮ノ陣学びのビオトープ

完成記念号

2016年9月創刊 季刊

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

宮ノ陣クリーンセンター

生き物との共生について考える

“学びのビオトープ”が完成

平成二十八年四月十七日（日）、久留米市宮ノ陣町八丁島に中間処理施設『宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザ』がオープンし、それにあわせて、久留米の住みよい空間を次世代に引き継ぐ自然環境をテーマにした学習拠点「宮ノ陣学びのビオトープ」も整備され、久留米の新しいシンボルを目指した取り組みが始まります。



池を配した宮ノ陣学びのビオトープ

「宮ノ陣学びの※ビオトープ」は、新しい久留米のシンボルを目指し、風光明媚な自然風景と調和しながら環境について学び、発信するために相応しい場所となるよう、また、地域の生物について学習できる空間として整備されました。流域の河川、水路や周辺の地域に生息・繁殖するさまざまな生き物が棲めるように、水・緑・土のある空間を設け、それに加えて、ビオトープを活用した講座やイベントの開催により、久留米の住みよい

環境を次世代に引き継ぐための自然環境学習の拠点を目指します。

※「ビオトープ」ってなんだろう？

ビオトープは、本来その地域にすむさまざまな野生生物が生息することが出来る空間のことで、「生物の生息空間」と訳されます。池がないビオトープもあります。ギリシャ語で「生物」を意味する「bios」と「場所」を意味する「topos」の合成語です。

出典：国立環境研究所

メダカがいなくなるって本当？

誰もが口ずさめる童謡「めだかの学校」でも親しまれているメダカ（ミナミメダカ）は、日本に昔から生息する淡水魚で、川、水田やその水路などで一般的に見られていました。しかし現在では、川の中でお遊戯する姿を見る機会は少なくなりまして。減少した原因はいくつか挙げられます。①田んぼや水路など生息場所自体の減少や水路のコンクリート化。②生息場所に生活排水が流入したこと。③メダカを食べてしまう生き物が侵入したことなど、メダカの生息環境が大きく変化したことがその原因と考えられています。

メダカへの新たな危機

生息環境が減少し続けるメダカは、平成十一年、環境省により「絶滅のおそれのある野生生物の種」のリスト（環境省版レッドリスト）に掲載されました。これは絶滅の危機にある野生生物の現状を的確に把握し、保全・保護方策の検討や一般市民への普及・啓発などを図ろうと

する政策です。このことはテレビや新聞でも報道され、メダカが急に注目を浴びることになりました。それを契機に各地でメダカの保全活動が活発になる中で、間違った手法による活動も行われるようになりました。それは、メダカを復活させるため放流したメダカが他の地域に生息していたものや商業的に飼育されたものが使われるというものです。メダカは同じように見えても、実は地域による集団に分かれていることが遺伝子解析などで判明しています。

よって、同じ生き物でも生息場所が異なると遺伝子が異なる「遺伝子の多様性」についても理解し、正しい保全活動を行う必要があります。

メダカを見に行こう

宮ノ陣学びのビオトープでは、筑後川流域に生息するメダカが棲めるようにしたいと考えています。宮ノ陣学びのビオトープの池で気持ちよさそうに泳ぐメダカを見に来てください。



薄紫色の花を咲かせたサルズベリ

サルズベリ（百日紅）

宮ノ陣学びの
ビオトープの花

夏から秋に花を咲かせ、「百日紅」と表記されるように開花期が長いのが特徴です。サルが登ろうとしても滑りそうな樹皮の状態から和名がついたと言われています。

【宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内】

住所 〒839-0805 福岡県久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
開園時間 9:00～17:00
休園日 毎週水曜日（休日の場合は翌日）、12月29日～1月3日
アクセス （車）国道322号線沿い、駐車場有り （電車）西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分

これが「宮ノ陣学びのビオトープ」だ！

みやのじんまな

水・緑・土など色んな環境があり、
多くの種類の生き物がすめる場所。
そして、生き物と人が共生する大切
さを学ぶ場所だよ！

舗装は土と
竹など自然
の材料だけ

花が咲いた
り、実がな
ったり、
いろんな
植物が
いっぱい

魚が泳ぐ姿
が見られる
池ゾーン

岩の隙間に
生き物が
隠れたり、
棲んだり
できる
岩や石の
ゾーン

水が流れる
せせらぎ
ゾーン

地面は全て
が平らでは
なく、高さ
が違う場所
もある

虫が休んだ
り、棲んだ
りできるよ
うに、草も
切りすぎな
いように
している

橋の上から
魚が泳ぐ姿
が見られる



第1回 メダカ（ミナミメダカ）



写真：財団法人自然環境研究センター

“宮ノ陣学びのビオトープ”に繁殖する樹木や
草本、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお
伝えします。

第1回は「メダカ（ミナミメダカ）」です。

（分布） 九州、本州、四国に広く分布

（生息場所） 川の水溜り、用水路、水田や池などの流れがゆるやかな淡水

（くらし） 一般に群れで生活し、浮遊動物や付着藻類などを食べる。春から秋まで年2～3回産卵し、1回の産卵数は約20～50個。4～6か月で体長約2cmとなり成熟し、最大3cm程度になる。寿命は、普通は1年であるが、2年生きることもある。水温・塩分の変化や汚濁などに比較的強い。

（備考） 北日本集団と南日本集団の遺伝子的、形態的な違いにより、それぞれキタノメダカとミナミメダカの2種類に分類されています。準絶滅危惧（福岡県レッドデータブック2014）

出典：日本淡水魚類図鑑、保育社



気をつけよう！

「メダカ」と「カダヤシ」

※ミナミメダカをメダカと表記

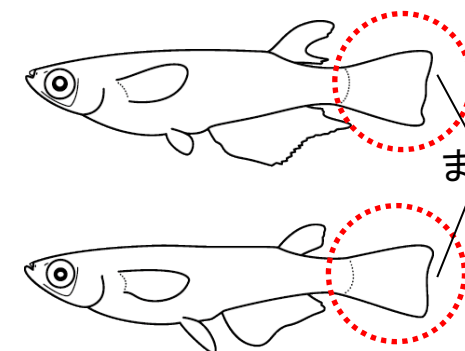
「メダカを川に放して復活させよう！」

ちょっと待って！それはメダカのように見えて、形や色がメダカによく似ている「カダヤシ」かもしれません。カダヤシは、ボウフラ（蚊の幼虫）を退治するためにアメリカから持ち込まれ、今では日本各地で繁殖するようになりました。名前は「蚊を絶やす」から付けられたと言われています。カダヤシはボウフラだけでなく、メダカの卵や稚魚なども食べるため、メダカがいなくなってしまう場所もあります。

メダカを守るためには、他の地域のメダカを放流しないことに加えて、カダヤシをメダカと間違っ放流しないことも大切です。

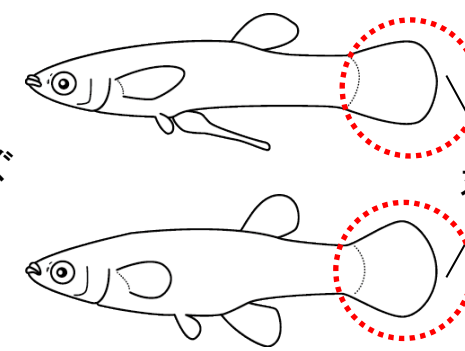
では、下の図で、メダカとカダヤシの違いを体の特徴で比べてみましょう。

メダカ（上がオス、下がメス）



まっすぐ

カダヤシ（上がオス、下がメス）



丸い

他にも、
メダカは卵
生で卵を産
み、カダヤシ
は卵胎生で、
体内で卵を
ふ化させて
子どもを産
むなどの違
いがある。

一番わかりやすい区別方法は、尾びれの形

次号
予告

10月1日に開催の体験学習イベント「水辺の生き物探し大作戦」の報告、
秋のビオトープの様子 などお楽しみに！

そして、宮ノ陣学びのビオトープにお気軽にお越しください。